

企画委員から

戦争のない平和な世界について考える

やまもと ゆうすけ
山本 雄介

● NTT労働組合中央本部 組織部長

戦後・被爆80年を迎える今年、多くのメディアで、戦争の体験を伝える特集が生まれ、自治体や団体では、同様のイベントが行われています。

80年という年月により、記憶の風化もさることながら、戦争の記憶を伝承していくこと自体が難しくなっているのが現状ではないでしょうか。総務省の人口推計では、2024年10月1日時点、戦後生まれの割合が87.9%となっています。平和の大切さを伝える活動として、戦争を経験し、その経験を伝えていただける先輩方から、当時の記憶を聞き・後世に残す取り組みが求められます。

私たちNTT労組も戦後・被爆80年を迎える今年、平和を未来へつなぐ取り組みを展開しています。主な取り組みとしては、NTT労組退職者の会等の皆さんに協力をいただき、戦争や被爆の体験を歴史証言の記録として残し伝える取り組みや、NTT労組の定期全国大会（2025年7月開催）の機会をとらえ「平和イベント」を実施し、あらためて平和運動の大切さやこれからの取り組みについて考える機会としています。

ロシアのウクライナ侵攻は、大国がこんな理不尽な理由で戦争を始めるのかと衝撃を受けましたが、世界の各国は、多くの戦争を経験し、その残酷さを知っているにも関わらず、戦争や紛争が後を絶ちません。

なぜ、戦争がなくなるのか。戦争をすることで自分の地位を守り続ける人、権力を維持するために戦争を利用する権力者など、戦争の政治利用という側面が大きいのではないのでしょうか。

戦争の主な要因は、資源、民族・宗教、領土などの問題と言われています。それぞれの国には、それぞれの主張があるのかもしれませんが、どのような主張があるにせよ、人命を奪って良いという理屈はありません。今行われている戦争も、多くの一般市民の命が奪われています。国家間の問題は、戦争によらない、外交・対話で解決していくという姿勢が重要です。

漫画ドラゴンボールをご存知の方は多いと思いますが、ストーリーのかなり前半のピッコロ大魔王が登場する場面で、「世界の国王」というキャラクターが登場します。ドラゴンボールの世界観では、地球上には一つの国家しかないようですので、地球全体を統治する唯一の国家の統治者ということになります。現実世界でも、地球が唯一の国家になれば、戦争は起きないのではないかと考えていたことを思い出します。

漫画の世界であり、非現実的ではありますが、「世界の国王」のもと、民族・宗教等の違いを認め合い、資源を分け合い、領土という概念をなくせば戦争が起こる要因はなくなるかもしれません。

あたかも一つの国家のように、現在の各国間の利害対立を、法律・制度・対話などにより解決することができる世の中にならないかと希求するのは、夢物語でしょうか。

戦争は究極の人権侵害です。世の中から戦争を無くすため、私たちは平和の大切さを伝え広げる取り組みをもっと拡大していかなくてはなりません。